



2009年5月19日(火)

H20年度地球研谷口P 「都市の地下環境に残る人間活動の影響」

# 「物質班-都市経済班連携」

小野寺真一

Hiroshima University  
広島大学



# 目的

趣旨：物質班の論文印刷後の内容を、社会経済的な議論を加えて、新規の成果を出す。⇒プロジェクト上での班連携にも寄与

☆都市における重金属汚染

★都市における窒素汚染

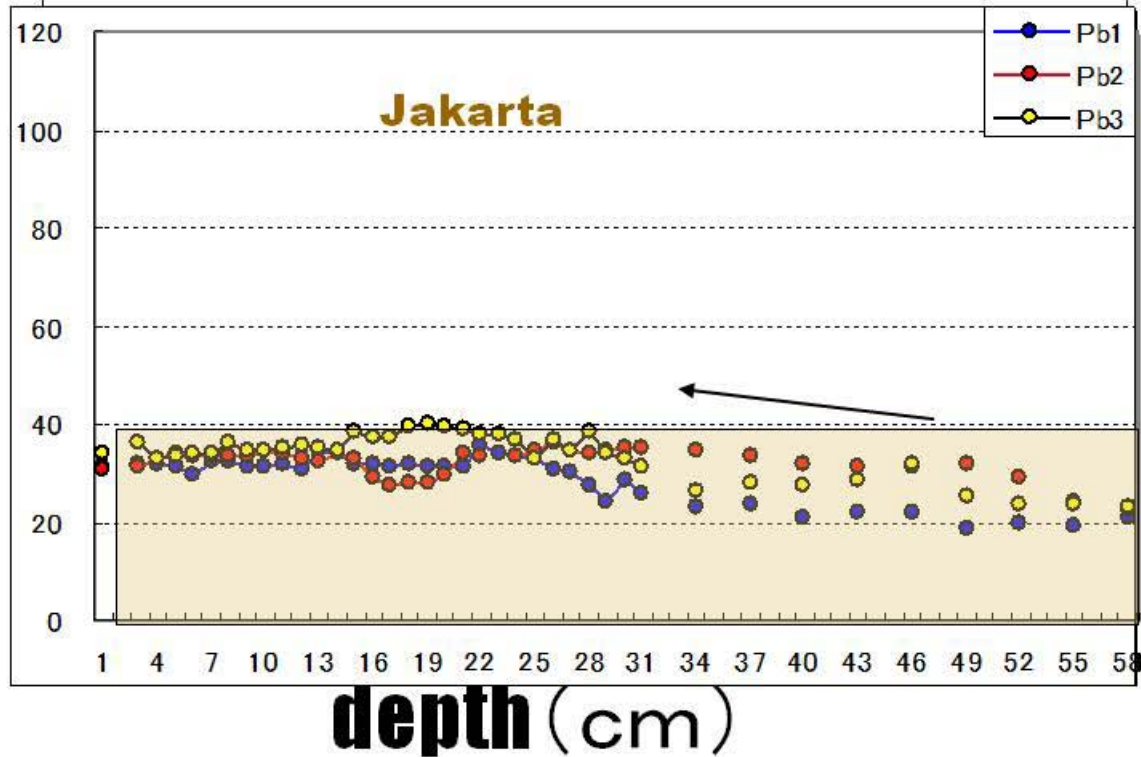
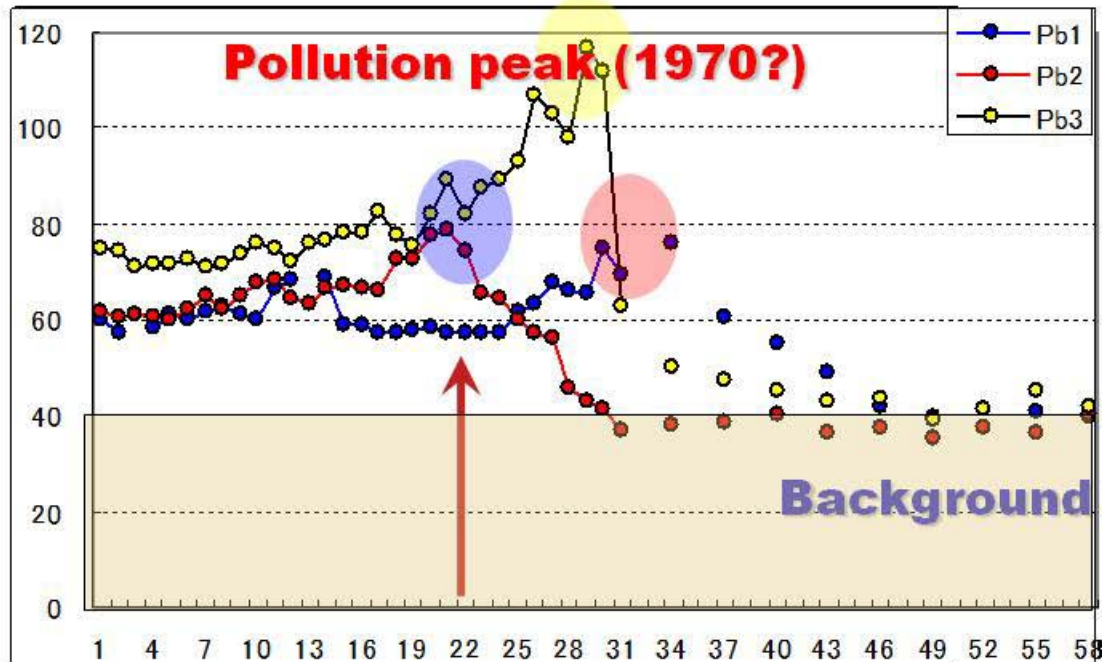
科学的データ（物質班）をもとに、社会経済的視点も加えて議論する。

# 活動状況

2008年9月6日 キックオフミーティング(広島大にて)

2009年1月29日 重金属汚染データの検討: 堆積物の細野論文をベースに(法政大にて)

2009年3月30日 窒素汚染データの検討: 梅沢STOTEN & 堆積物論文をベースに(法政大にて)



**Osaka**

予  
のガ  
から  
よ  
(藤裏  
た。

## 成果 2

- 石炭の影響 (= 暖房の影響) は温帯地域の大阪 だけであり、ジャカルタ、マニラではないので、その点でも異なるだろうという貴重な見解が出た(藤倉より)。
- 細野ダイアグラムをもとに、金子班も、社会政策的な議論を加えて論文を書くことを確認した。もちろん、その前に物質班(細野、梅沢ら)が論文印刷にこぎ着ける。

# 成果 3

- 齋藤の蓄積量にも年代が入ると面白いだろうとのコメントが出た(細野)。そのためには、少なくとも現在のインプット量データが必要だろう(雨の採水や粉じんの測定など)(藤倉、小野寺)。
- Shindoら(2006) EcoModel :すでに各国で窒素負荷をモデル計算している(梅沢の引用)。海洋の窒素は蓄積量としてモデル計算をする必要がある(小野寺)。
- また、GISベースの原単位法で各年代の窒素負荷を計算し、地下の蓄積量も復元して計算する予定(小野寺&清水 + 藤倉モデル)。

# 次回

- 7月に会議  
詳細は、金子さん